

## 第2回看護研究会 (看護補助者教育研修会)

●日 時 令和5年8月1日(火) 10:00~15:50  
●開催方法 ハイブリッド開催 (会場:岡山県医師会館 401会議室)

●出席者 49病院116名・委員11名

### 講演 認知症を持つ人に寄り添うコツ

講師 一般財団法人津山慈風会 津山中央病院 看護副部長兼外来師長

認知症看護認定看護師 小幡 陽子氏



65歳以上の高齢者の認知症患者数は、2012年の統計で462万人(7人に1人)であり、2025年には約700万人(約5人に1人)が認知症になると推計されている。

認知症の症状には、「認知機能障害」と「BPSD」がある。記憶障害のあるアルツハイマー型認知症は高齢者に多い。加齢による身体変化(難聴や視力障害、夜間尿の増加、便秘、不眠など)が認知症状を助長させている場合がある。どうしてこのような行動や反応が起こっているのか認知症を持つ人の世界を知ることが重要。認知症を持つ高齢者の特徴として、楽しいことや嬉しいこと、辛いことなどの感情は心に残る。全てを忘れるのではなく、印象的な出来事は感覚的な印象として記憶に残っていることも多い。

認知症を持つ人に寄り添うためにできることは、本人の安心できる療養環境を作ること。そのためには生活史、食

事環境、排泄環境、移動手手段、大切なものなどを知る。一人ひとり違うから難しい。PEAP(認知症高齢者への環境指針)を理解し、環境支援への発想を広げていくことが大切である。安心につながる接し方・話し方は、認知症を持つ方が安心して生活できる環境の一つ。認知症の人が安心して心穏やかに暮らすことは、認知症を遅らせることができ、介護者はBPSDに悩まされることがなくなる。

認知症の症状悪化を防止するためには、①睡眠(スヤ)睡眠環境整備 ②食べる(パク)口内環境 ③排泄すること(ポン)排泄(排便コントロール)環境 ④楽しむ(キュー)やりたいことでやれることを探す。

認知症をその人が持つ特徴と捉え、「その人らしさ」や「個性」などが重要であることを改めて考えることができた。

(看護研究委員 窪田京子)

### 講演 基本のおむつの当て方とポジショニングの基本

講師 一般財団法人津山慈風会 津山中央病院 副師長

皮膚・排泄ケア認定看護師 吉田 美佳氏



おむつはギャザーを上手に立てて使用することで尿もれを予防できる。テープ止めおむつに尿取りパットを当てて使用する際のおむつの準備は、両端をもって軽く引っ張ることによって自然にギャザーが立ち上がる。吸収ポリマーが偏るので横に振るなどしない。パット装着時はおしりのたるみをとるために一度足先の方に引き、鼠径部の太ももの付け根部分は丁寧に装着する必要がある。ギャザー部分が立ち上がらずに、折れ込んでしまっている場合や、ウエスト部分がゆるく隙間がある(指一本分程度のゆとりが良い)場合は漏れの原因になる。そのため、適正な装着のためには体型に合わせた大きさの選択や効果的なクロス止めの方法も重要。尿取りパットでの注意すべきポイントとして、パットを何枚も重ねて使用すると吸収量が逆に確保できず、ムレの原因となり褥瘡発生も懸念される。夜中の睡眠障害の予防のためには、尿回数や量を3日間ほど調査して、個人に合ったパット

の選択を行い、夜中の交換回数を減らすとよい。下痢便は、尿取りパットは吸収しづらいので漏れやすい。軟便用のパットの市販もあるが、まずはテープ止めおむつ1枚での装着にしたほうが漏れにくくなる。

ポジショニングは、目的に適した姿勢(体位)を安全で快適に保持することである。ポジショニングの中に体位変換が含まれる。体位変換が必要な理由は、圧迫部位圧力開放、循環障害を予防、肺炎予防、心理面での効果である。隙間があると苦痛であり、圧を分散させるためには点ではなく面で支える。体位変換時の圧抜き(滑る手袋を使った除圧、背抜き)によりズレや摩擦の予防や血液循環には好影響を与え褥瘡の予防となる。ベッドギャッジUPやDOWN時にもポジショニングと圧抜きが重要である。

(看護研究委員 山本礼子)